

【事業分野: 道路・その他】 【対象施設: 道路施設・河川施設】 【事業手法: 包括的民間委託】

調査のポイント

- 1. 包括的民間委託と技術継承を両立させる仕組み
- 2. 技術継承をデジタル化し、属人化した日常メンテナンスを標準化・再現可能にする仕組み

1. 本調査は、包括的民間委託において民間事業者を知識・技術の維持・継承の担い手として位置付けることで、委託拡大による職員の技術力低下を抑制し、包括的民間委託と技術力の維持・継承の両立を図る新たな官民連携モデルの構築を目指すものである。
2. 技術職員の不足という共通課題に対応するため、点検記録や対応履歴、判断基準等を一元的に蓄積・可視化し、日常メンテナンス業務の標準化と再現性向上を図るデジタルプラットフォームの考え方を整理するものであり、他自治体にも展開可能な汎用性を有する。

事業/施設概要

インフラの特性

- ・本市は交通の要衝として、鉄道・高速道路などが古くから整備されてきており、森林が多く、山間部と平野部の移動距離が長い為、災害対応や日常メンテナンスで移動・現場到達の負担が大きい。
- ・市管理の道路橋の約1割が跨線橋・跨道橋・吊り橋等で、点検・補修に高い専門性が必要となり職員の技術力確保の重要性は高い。



財源・人材の制約

- ・市税はピーク時から3割以上減少し、**維持管理予算も縮小傾向**にある。
- ・土木部門は過去10年間で採用13人に対し退職18人と、**人員減少**が継続している。
- ・技術職は**応募者が少なく、採用自体が困難**な状況である。また、40代以上に偏り、10~20代は**約6%と若手不足**が顕著である。



現状の課題と方向性

- ・インフラの老朽化に加え、財源縮小や人材不足が重なり、業務負担の増大と技術継承の困難化が進行している。こうした状況を踏まえ、効率化・生産性向上および職員負担軽減の観点から、民間への包括的委託の必要性は高まっている。
- ・一方で、**委託が進むほど職員の現場経験や判断機会が減少し、市職員が保有するメンテナンス技術・ノウハウの喪失が加速する懸念**がある。

目的

技術継承型包括スキームの構築

従来の包括的民間委託に、**職員の知識・技術の維持・継承を図る協働・共有の仕組み**を組み込み、**民間事業者にも参画を求め**ることで、委託に伴う職員ノウハウ・技術力の喪失を抑制する新たなスキームの構築を目的とする。

職員の役割転換(亀山モデル)

包括的民間委託導入後、職員の役割を通報・現場対応中心から監督・評価・マネジメント中心へ段階的に転換し、役割の高度化・専門化や新技術導入を通じて、**若手人材の確保・定着につながる新しい働き方(亀山モデル)**を提示する。

デジタル化による知識の可視化・標準化

属人化している維持管理業務の知識を、点検記録・対応履歴・判断基準・現場画像等の**一元管理(デジタルプラットフォーム)により可視化・標準化**し、経験年数に依らず一定水準の業務を再現できる環境を整備するとともに、他自治体への展開可能性を見据える。

これまでの経緯



日常メンテナンスや点検・設計業務等の包括発注化などの官民連携に係る勉強会を発足

インフラメンテナンスのあり方検討を行い、官民連携による維持管理の推進とあわせて、若手技術者の採用難・定着難の解決にも取り組む

【R7:先-9】 亀山市インフラメンテナンス人材育成・仕事魅力向上検討調査 (実施主体:三重県亀山市)

調査結果

- 包括的民間委託の委託範囲拡大を踏まえ、職員の判断力・品質確認力・説明力が低下しないよう、保持すべき知識・技術を整理するとともに、委託化の影響を受けやすい領域を抽出した。(A~B)
- 標準化、現場接点の確保(OJT)、レビュー運用、情報資産化を組み合わせた維持・継承の仕組みを提示し、官民双方の取組による知識・技術の維持・継承モデルを構築した。(C~D)

A

A 自治体職員が担うインフラメンテナンス知識・技術の整理・体系化

制度・契約に関する知識・技術 (ガバナンス)	マネジメントに関する知識・技術 (運用・対外・組織)	専門的な知識・技術 (エンジニアリング)	ナレッジに関する知識・技術 (現場知・判断・情報資産)
------------------------	----------------------------	----------------------	-----------------------------

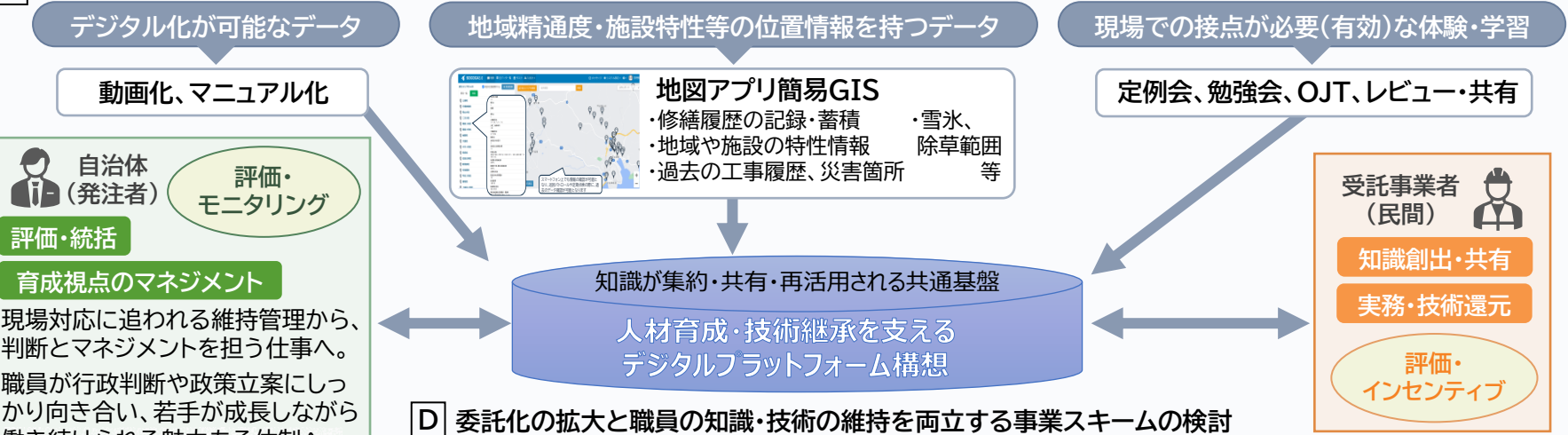
B

B 委託化の拡大により影響をうける知識・技術の整理

①技能の維持に留意が必要な領域		②知識資産の散逸に留意が必要な領域		③統制・監督機能として重要性が増す領域	
日常維持管理(小規模修繕・応急措置)、点検・巡回・一次判定、品質管理	日常運用マネジメント(受付から完了確認、是正、改善までの運用)	標準手順・判断基準、現場判断・優先度判断、地域特性・施設特性、留意事項・特記事項、情報資産	データ管理・運用(台帳・履歴・写真・位置情報等の整備・活用)	外部マネジメント・チームマネジメント(委託先・地元企業の統括)	契約管理・検査・変更管理・予算執行・管理

C

C 知識・技術の維持・継承手法および記録・蓄積方法の検討



D

D 委託化の拡大と職員の知識・技術の維持を両立する事業スキームの検討

事業化に向けた今後の展望



- 受託事業者を知識・技術の担い手として位置づけ、役割や評価方法、インセンティブを含む実効的な仕組みを構築する。
- あわせて、市内外の民間事業者へのサウンディング調査を通じて、実現性や費用対効果を検証するとともに事業スキームを具体化し、持続可能なインフラ維持管理体制の確立を図る。

NEXT

公務員の仕事は、次のステージへ。

調査結果

もっと もっと 亀山市 技術職を積極採用中
インフラを守る仕事は、**専門的に。** **魅力的に。**

亀山市では、官民連携によりインフラ施設の維持管理業務の役割分担を見直し、働き方の見直しを進めています。

現場対応中心から

Before

9:00
現場確認、
道路パトロール



13:00
メール・電話対応
(通報処理)



16:30
発注資料の
整理・作成



マネジメント・技術活用型へ

仕事の役割が変わる

9:00 工事発注の準備 (設計・積算)
通報・現場対応の一部を民間と分担し、職員は
計画・設計・マネジメント業務に注力します。



技術で効率化する

13:00 業務の効率化 (新技術) について協議
官民連携に新技術の活用も組み合わせ、
点検・記録・情報整理の効率化を進めます。



15:00 包括委託の予算執行状況について資料確認



知識を残す仕組みをつくる

16:30 明日の現場にむけてマニュアルを確認
写真・位置情報・判断根拠などを標準化して記録し、現場
のノウハウや専門的な知識・技術をデジタルで継承します。



インフラを守る仕事は、地域の未来をつくる仕事。

公務員の仕事は、次のステージへ。